

第 42 回テーマ

## 中国を考える

ある経営者から、今、中国では日本の食文化がとても受けているという話を聞いた。噂ながらも、富裕層を中心に日本の「食」がブレイクするのでは？と各方面で研究が進んでいるという事だ。確かに世界の中でも中国の躍進はめざましい。市場成長率も世界戦略も中国を中心に展開されているとあって良いほど、経済活動の中心となっているのも事実である。日本食が注目を浴びているのも、一過性とならなければ良いのだが...と願うばかりである。

一方、中国の現在を日本の「バブル期」になぞらえ、その将来を危惧する声があるのも事実だ。通貨である元の問題や、不動産価格の暴騰などを根拠に様々な議論がなされており、事業を行う上で不安定さは否めない、という意見である。ただ、現在は各産業とも中国への事業展開は活発に行われている。それも大企業だけではなく、中小企業も次々に進出している。事業には当然であるが、ある程度のリスクを伴う。もちろん、失敗を容認する経営者などはいない。リスクを踏まえての強烈なリーダーシップが常に企業のアドバンテージを握るのは間違いところだろう。

前述した経営者は、冷静に自社の経営資源や「強み・弱み」を整理し、中国への海外展開を真剣に目論んでいる。経営はギャンブルではないので、考えられるリスクを整理し、それをも吸収できるメリットを感じ得たタイミングで進出したいという意見だった。正解であるか？否か？という評価はできないが、個人的には高い可能性を感じる所だ。

今後、内需産業においては、自社の事業領域の成長性を予測し、産業構造内ポジションをキチンと整理して、的を得た政策が必要になるだろう。周辺事業にチャンスがある可能性もあるし、逆に成長性が見込めなければ「市場占有率」という面で優位に立つ必要がある。もちろん合理化や効率をも追求していかねばならない。

また、外需産業においては、国内とは異なる規制や商慣行なども考慮し、国内とは異なる販路拡大策に注力すべきだ。既存のやり方で通じるケースもあれば、応用していかねばならないケースもあると思う。